19 世紀イギリスの子ども向け定期刊行物 “*Good Words for the Young*” について

髙 橋 摩 利 子

はじめに

19 世紀イギリスのヴィクトリア朝（1837-1901）時代において、大人向けの定期刊行物 ”*Good Words*”（1860-1906）の子ども向けとして ”*Good Words for the Young*”（1868-1877）が登場した。本雑誌は、「宗教的」および「非宗教的」なものの融合を試みた雑誌であった。また、児童文学の黄金時代を築いた作家の一人であるジョージ・マクドナルド[1]（George MacDonald, 1824-1905）も寄稿者であり、編集者としても携わっていた時期があった。作品には、マクドナルドのファンタジー小説で有名な『北風のうしろの国』（*At the Back of the North Wind*, 1871）、『お姫さまとゴブリンの物語』（*The Princess and the Goblin*, 1872）、『カーディとお姫さまの物語』（*The Princess and the Cardie*, 1882）などだけでなく、フィクションや詩なども寄稿されており、マクドナルドの作品の特徴を探る上でも重要な雑誌であると考えられる。先行研究に関してはあるものの、詳細に述べているものは非常に少ない。

本稿の目的は、研究ノートとして、*Good Words for the Young* がどのような雑誌であるのかについて探り、さらなる研究に繋げることである。また、マクドナルドが編集者として意欲的に雑誌に取り組もうとしていたことについても少し触れたい。

本稿では、雑誌名の *Good Words for the Young* は英語表記のままとする。

第１章　子ども向けの定期刊行物 ”*Good Words for the Young*” とは

本章では、*Good Words for the Young* がどのような成り立ちで創刊されたのかについて、また本雑誌の概要について述べるものとする。

児童雑誌が登場したのは、ジョン・ニューベリー出版の *The Liliputian Magazine*（『リリパット・マガジン』）（1751）が最初であった。

19 世紀前半になると、「日曜学校による雑誌が中心で、*The Child's Friend*（『チャイルズ・フレンド』）(1826-60) をはじめ、宗教団体は競って、子どもの雑誌の発行をはじめた。」

19 世紀半ばには、週刊誌の *Boys of England*（『ボーイズ・オブ・イングランド』）（1866-1906）や *The Boy's Own Magazine*（『ボーイズ・オウン・マガジン』）(1855-74) が登場し、宗教色を出さない工夫をした宗教団体のものもあった。この時期に、*Good Words for the Young* は創刊されたのであろう。他の雑誌は、少年向けまたは少女向けとして発行されている中、*Good Words for the Young* は、少年少女向けの読み物として登場した。

19 世紀後半に創刊された非常に人気が高く代表的な雑誌は、*The Boy's Own Paper*（『ボーイズ・オウン・ペーパー』）（1879-1967）であった。宗教叢書協会（The Religious Tract Society）が「質の高い少年読物を提供しようとする目的で創刊したものであるが、協会の名前は一切出さなかった。少年に活動的で克己をモットーとするくらしをすすめ、博物趣味に蘊蓄を傾け、全寮制の学校生活を讃美し、愛国を語りかけている。」その一年後に、同協会から、*The Girl's Own Paper*（『ガールズ・オウン・ペーパー』）（1880-1908）も創刊されたが、「従順さと料理や裁縫をすすめる編集方針は、子ども向きとは言いがたく、少年版ほどの人気を得ることはできなかった。」

少女向きの読み物には、*The Monthly Packet of Evening Readings for Younger members of the English Church*（『マンスリー・パケット』）(1851-93)

やギャティ夫人（Margaret Gatty）編集による児童書の書評欄を設けた *Aunt Judy's Magazine*（『アント・ジュディズ・マガジン』）（1866-85）などがあった。ルイス・キャロルもその雑誌の寄稿者の一人であった。（『英米児童文学』103, 104, 105）

1. 大人向けの定期刊行物 "*Good Words*" との関わり

Good Words for the Young について述べる前に、まず母体である *Good Words*（1860-1906）について少し触れたい。本雑誌の信念により子ども向けの *Good Words for the Young* の創刊に繋がったのである。

大人向けの月刊誌 *Good Words*（1860-1906）は、1860 年に Alexander Strahan and Co., Magazine Publishers（ストラハン）によって創刊され、穏健な福音主義の第一人者であるノーマン・マクラウド[2]（Norman Macleod, 1812-1872）が編集者として携わっていた。非常に成功した雑誌の一つであると位置づけられている。また「*Good Words* の重要な点は、宗教的および非宗教的な市場を組み合わせようと試みたことである。」（the greater importance of Good Words lies in the attempts that it made to cross the religious and secular markets.）（Knight 300）

しかし、パトリシア・スレバニック（Patricia Srebrnik）とマーク・ターナー（Mark Turner）が指摘するように、「*Good Words* は宗教的および非宗教的なものを融合させる試みに完全には成功しなかったが、福音主義の理解を広げ、キリスト教を伝える新しい方法を探求した」雑誌であった（Knight 300）。出版社と編集者の双方が、この目的のためにさまざまな文学形式を通じてキリスト教を伝えようとしたのである。当時は、子ども向けに書かれたものを含む福音主義の小説の大部分は、非常に教訓的であり、敬虔な支持者たちによって読まれていた（Knight 300-301）。上記のような状況から、*Good Words* と同様に、ストラハンは編集者のマクラウドとともに、1868 年 11 月に、定期刊行物の範囲をさらに拡大しようし、子ども向けの *Good Words for the Young* を創刊した。

2. *Good Words for the Young* のタイトル名の変遷

前節で述べたように、*Good Words* が大人向けの定期刊行物であるのに対し、*Good Words for the Young* は子ども向けに 1868 年 11 月に創刊され、出版社は、*Good Words* と同じストラハンであり、初代編集長はマクラウドであった。その後、本雑誌は、1869 年 11 月にジョージ・マクドナルドが編集者として引き継いだ。マクドナルドの編集者としての期間はわずか 3 年であったが、雑誌自体は、タイトルを変えながら 1877 年まで続いた。

【表 1】は、雑誌のタイトルを記したものである。最初のタイトルは 1872 年 11 月で終わり、1872 年 12 月から *Good Things for the Young* が始まった。

【表 1】全巻のタイトル

期間：1868 年 11 月 1 日-1877 年 12 月 1 日（約 9 年間）

年	タイトル
1868-1872	Good Words for the Young
1872-1873	Good Things for the Young for all ages
1874	A FEAST OF GOOD THINGS (FOR THE YOUNG OF ALL AGES Stories, Tales, Travels, Fables, Adventures, Natural Histories, Boys Lives, Girls Lives, Poems, Puzzles with over 150 pictures)
1875	Good Things：The Picturesque Annual
1876	GOOD THINGS: A Picturesque Magazine for Boys and Girls (The English Boy's and Girl's Magazine)
1877	GOOD THINGS: A Picturesque Magazine for Boys and Girls

3. 価格

雑誌の価格は6ペンスで、廃刊まで同価格であった。

【表2】は、食べ物を例として、当時の貨幣の価値について示した。週刊誌が1ペニーで販売されていた時代であるため、月刊誌とはいえ、6ペンスの雑誌は、労働者階級にとっては非常に高価なものであった。従い、読者層は中産階級以上の子どもたちになるであろう。

【表2】1850年前後の食べ物の価格（ペンスはペニーの複数形）

食べ物	価格		
コーヒー1杯 バタートースト2枚	1ペニー	労働者が行くコーヒーハウス	（メイヒュー 74）
アイスクリーム1カップ	1ペニー		（メイヒュー 110）
バター（1ポンド（重さ））	9ペンス	労働者階級の家庭での一週間分に当たる	（角山、川北 66）
チーズ	8ペンス		（角山、川北 68）
紅茶またはコーヒー	6～7ペンス		（角山、川北 68）

4. 寄稿者と挿絵画家

Good Words for the Young における寄稿者には、以下の作家などが挙げられる。チャールズ・キングズリー（Charles Kingsley, 1819-1875）、ヘンリー・キングズリー（Henry Kingsley, 1830-0876）、ダイナ・マリア・モレク・クレイク（Dinah Maria Muloch Craik, 1826-1887）、ウィリアム・ブライティ・ランズ（William Brighty Rands, 1823-1882）、ジーン・インジェロー（Jean Ingelow, 1820-1897）、ハンス・クリスチャン・アンデルセン（Hans Christian Anderson, 1805-1875）、ジョージ・マクドナルド、ノーマン・マクラウドなどがいる。

また、挿絵画家には、アーサー・ヒューズ（Arthur Hughes, 1832-1915）、フランシス・アーサー・フレーザー（Francis Arthur Fraser, 1846-1924）、アー

ネスト・グリセット（Ernest Griset, 1843-1907）、W.S. ギルバート（W. S. Gilbert, 1836-1911）、アーサー・ボイド・ホートン（Arthur Boyd Houghton, 1836-1875）、エドワード・ダルジール（Edward Dalziel, 1817-1905）、トーマス・ダルジール（Thomas Dalziel, 1823-1906）、ジョージ・ピンウェル（George Pinwell, 1842-1875）などが携わっていた。風刺画、ファンタジー小説、自然描写、歴史的内容、詩など、様々なジャンルに挿絵が掲載されていた。非常に目を引き、魅力的に描かれている。

アーサー・ヒューズは、ジョージ・マクドナルドの主要な作品の挿絵にも携わっており、200 以上の挿絵を提供していた。また、ヒューズは、ヘンリー・キングズリーの小説や、ウィリアム・ギルバードの小説にも携わっていた。

5. 雑誌の構成

本雑誌の表紙を参照すると、毎月 1 日（月初め）に発行されていたようである。

雑誌の構成は、子ども向けのファンタジー物語、歴史物語、教訓物語、フィクション、詩などの読み切りや連載物の作品で構成されており、読者の声や感想または付録は載せていない。ページ数は発行号により異なるが、平均して 50 ページで 30 前後の挿絵と数枚の広告で構成されている。読者層は、中産階級以上の良い教育を受けている子どもたちが購入対象といえる。本の購入場所は、教会、日曜学校、マーケットやお店であると考えられる。

また、広告については子ども向けではなく、ミシン、薬、食品（小麦粉、ココアなど）、歯医者の宣伝など母親向けの内容になっており、こうした広告から、まずは母親が本雑誌を購入して子どもに与えているのではないだろうか。

【図 1】に示すのは、広告の一部である。特にミシンの広告が多く、産業革命で科学技術が発達し、機械革新の時代であり、家庭においてミシンが普及していった。

【図 1】ミシンや食品などの広告

第 2 章　マクラウドからマクドナルドへの引き継ぎ

第 1 章では、*Good Words for the Young* の概要について述べ、*Good Words* との関わりについても確認した。本章では、マクドナルドが編集業務を引き受けた状況について触れたい。

初代編集長のマクラウドとマクドナルドは友人関係にあった。当時、マクドナルドには、11 人の子どもがおり、執筆や説教などの活動を続けていたが、経済的に厳しい状況であった。そのため、本雑誌の編集者としての仕事を引き受けた。ストラハンとマクラウドがマクドナルドを選んだ理由は、マクドナルドがストラハンは密接な仕事関係にあったこと、マクラウドの親しい友人であったことだった（Knight 301）。マクドナルドが編集者として携わっていたのは、1869 年～ 1872 年と短い期間であったが、引き継いだ時の雑誌に掲載された挨拶文には、宗教的または教訓的な内容は一切述べられていない。また読者層を限定せず、様々な内容の作品を読者に提供しようと試みようとしていた。本人の経済面のために引き受けた編集の仕事であるが、非常に意欲的に取り組もうとしていると読み取れる。

以下は、マクラウドからバトンを受け取ったマクドナルドの最初の挨拶である。

George MacDonald, Editor's Greeting (1870)

After what my honoured friend, the ex-Editor of Good Words for the Young, so kindly wrote in the last Number, little is required of me beyond greeting my old friends in my new capacity. I promise to try to please them. I think it is the duty of everyone to lease everyone else, where nothing wrong is involved. But I should not think it worth while to make it my business to lease, except for the hope of being of service. I want to keep the Magazine up to its good title; and I shall be often turning over in my mind how to give variety and worth to its contents. Dr. Macleod has left me such a good staff of helping friends, that I start with ease. To resume his simile, he has handed me the tipper-ropes with a fair wind filling the sails, and an able crew, every man fit to be captain himself, crowding the deck; so that I may trust well to bring the yacht Good Words for the Young into the port of Good Hearing in safety every month.

—George MacDonald

(Good Words for the Young, 1870)

第3章　編集者としてのジョージ・マクドナルド

本章では、編集者としてのマクドナルドと作品の特徴を探るために、マクラウドの編集者の時とマクドナルドの編集者の時の相違について述べる。前章のマクドナルドの挨拶文だけでなく、雑誌にも工夫を凝らしていたことが捉えられる。ストラハンとマクラウドの本雑誌への意欲を引き継ぎ、また構成などもそのまま維持しつつ、マクドナルドは更なる雑誌の発展へと取り組んでいたのである。

1. 雑誌の表紙

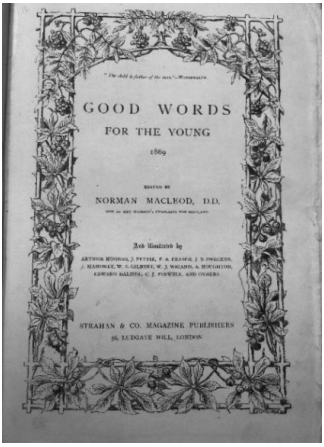
【図2】は、1869年と1870年時の雑誌の表紙を示す。左側は、マクラウドが編集者の時の表紙である。花が表紙を囲んでおり、上にはウィリアム・ワーズワース（William Wordsworth, 1770-1850）の詩「虹」（“The Rainbow”, 1802）の一節「子どもは大人の父である（The Child is father of the Man）」が記されている。ロマン主義時代の子ども観のイメージが、本雑誌の特徴の一つであると読み取ることができる。右側はマクドナルドが編集者の時の表紙である。実り豊かな花の挿絵は、読者にとって本雑誌における作品への興味や期待を抱かせるものである。また大きな花々が、ファンタジーの世界へと導いてくれるようにも感じられる。

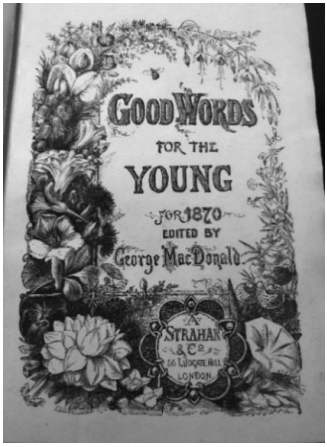
『子どもの本の歴史』によると、ワーズワースは、「子ども時代の特徴とは、自然界に本能的な親近感をいだくことからもわかるように、その自由闊達な想像力にある」と考えられていた（『子どもの本の歴史』173）。従い、双方の表紙で描かれている花の挿絵から、「自然観」や「想像力」も、本雑誌の作品の特徴を探るべくキーワードであることが暗示されている。

【図3】は、本雑誌のAnnual版であり、一年分が製本されたものである。月刊誌で用いられた表紙とはまた異なる表紙の装飾が描かれている。

【図 2】表紙

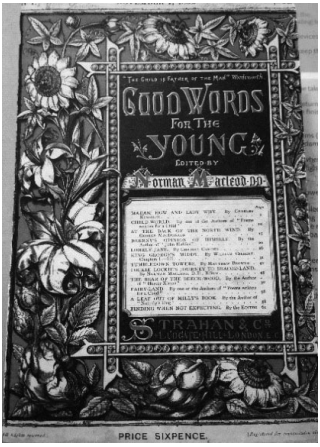
左：1869 年 1 月 Norman Macleod　右：1870 年 1 月 George MacDonald

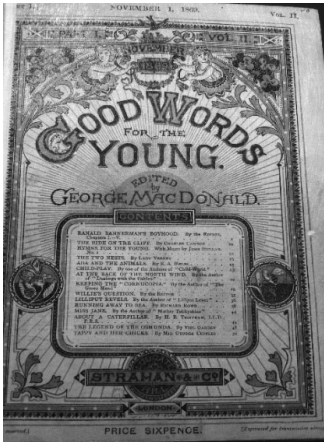




【図 3】Annual 版の表紙

左：1868 年 11 月 Norman Macleod　右：1870 年 11 月 George MacDonald





2. マクドナルドの寄稿作品

1868 年～ 1869 年 10 月までは、平均して 10 作品の寄稿であったが、マクドナルドが編集を務めていた期間は、長短編含め平均して 13 作品となっている。多い時では 16 作品前後で構成されており、より内容の充実性を図っている。また、本雑誌において、マクドナルドは自身の作品を多く寄稿しており、このことについて批判を受けていたが、雑誌の財政的苦境により、マクドナルドが自身の作品を寄稿していたようであった（Knight 303）。多い月で、3 作品を寄稿していた時期もあった。

当初、マクドナルドは、編集業務に対し£600 を年俸として受け取っていたが、ストラハンの財政状況がますます不安定になるにつれて、マクドナルドは報酬を放棄することに同意した（Greville MacDonald 361）。ストラハンの財政危機は廃刊まで続いていた（Knight 302）。

【表 3】に示すのは、マクドナルドの寄稿作品である。作品には、ファンタジー、フィクション、詩や説教などが作品が提供されている。

【表 3】ジョージ・マクドナルドの寄稿作品

年	タイトル
1868 年 11 月 -1870 年 10 月	*AT THE BACK OF THE NORTH WIND* 『北風のうしろの国』
1869 月 11 月 -1870 月 10 月	*RANALD BANNERMAN'S BOYHOOD* 『ラナルド・バナーマンの少年時代』
1869 年 12 月 -1870 年 2 月 1870 年 10 月	*WILLIE'S QUESTION*
1870 年 11 月 -1871 年 6 月	*THE PRINCESS AND THE GOBLIN* 『お姫さまとゴブリンの物語』
1871 年 11 月 -12 月	*THE SNOW-FIGHT*
1871 年 12 月	*THE WIND AND THE MOON*
1872 年 1 月 -1872 年 9 月	*THE HISTORY OF GUTTA-PERCHA WILLIE* 『グッタ・ペルカ・ウィリーの物語』

1872 年 2 月	*THE FOOLISH HAREBELL*
1874 年 1 月 -2 月，6 月	*COTTAGE SONGS FOR COTTAGE CHILDREN*
1876 年 4 月	*THREE PAIRS AND ONE*
1876 年 8 月	*WHAT THE OWL KNOWS*
1876 年 9 月	*THE SEA-SHELL*
1876 年 11 月	*THE WATERS ARE RISING AND FLOWING*
1876 年 12 月	*MORNING HYMN*
1877 年 1 月 -12 月	*THE PRINCESS AND CURDIE* 『カーディとお姫さまの物語』

＊ 1875 年度については未調査である。

おわりに

本稿では、子ども向けの月刊誌 *Good Words for the Young* の概要について述べた。雑誌創刊の目的は、「宗教的」および「非宗教的」なものの融合を様々な文学形式を通して伝えることであった。編集業務をノーマン・マクラウドから引き継いだジョージ・マクドナルドは、表紙や作品の構成など、非常に意欲的に取り組んでいた。表紙については、豊かな実りある大きな花を描くことにより、ファンタジーの世界を連想させ、また作品へのつながりを暗示している。出版社の財政危機が続き、本雑誌は非常に短命であったが、寄稿者および挿絵画家により充実した内容であったと捉えられる。

今後の研究については、本稿では、各項目について表面的な部分のみの調査に留まっており、さらに掘り下げた分析を進めていく。特に、本雑誌の位置づけは、より明確にしなければいけない。また、*Good Words for the Young* における作品の分析およびマクドナルドの作品との比較や、挿絵画家との関わりについても、考察および検討を引き続き行うことによって、新たな知見を得られることを期待したい。

＊写真はすべて筆者が British Library にて撮影したものである。

注釈

1. ジョージ・マクドナルド：スコットランドのアバディーン出身の児童文学者、詩人、牧師である。8歳の時に母が亡くなり、父親とカルヴァン主義を厳格に守る祖母に育てられる。後に「神による選別」に疑義を抱くようになった。
   Oxford Dictionary of National Biography. http://www.oxforddnb.com
2. ノーマン・マクラウド：スコットランドのキャンベルタウン出身。スコットランド国教会（Church of Scotland）の聖職者。ジャーナリスト。
   1847年に福音同盟（The Evangelical Alliance）の創設者の一人。
   Oxford Dictionary of National Biography. http://www.oxforddnb.com

参考文献

MacDonald, George. *At the Back of the North Wind*. Ed. Roderick McGillis and John Pennington. London: Brandview Editions, 2011.

---. Appendix A: Good Words for the Young and the Serial Publication of At the Back of the North Wind.

---.1. Mark Knight, Introduction: Good Words for the Young. p.299-303.

---.2. Cover of Good Words for the Young（1869）

MacDonald, Greville. *George MacDonald and his Wife*. London: Johnson Reprint Corp, 1980（1924）.

Macleod, Norman ed. *Good Words for the Young*. London: Strahan & Co., 1868-1869.

MacDonald, George ed. *Good Words for the Young*. London: Strahan & Co., 1870-1872.

Oxford Dictionary of National Biography. Oxford University Press, 2004. <http://www.oxforddnb.com>（accessed 10th October, 2020）

National Portrait Gallery. <https://www.npg.org.uk/>（accessed 10th October, 2020>

角山榮、川北稔編『路地裏の大英帝国』東京：平凡社、1988年

ハント、ピーター編『写真とイラストでたどる子どもの本の歴史』さくまゆみこ、福本友美子、こだまともこ訳、東京：柏書房、2001年

メイヒュー、ヘンリー『ヴィクトリア時代　ロンドン路地裏の生活誌　上』植松靖夫訳、東京：原書房、1992年

吉田新一編『ジャンル テーマ別　英米児童文学』東京：中教出版、1987年